

《2020年》「串団子」伸長、チルド和スイーツが寄与するも、蒸しパン・中華まん苦戦。前期並み

| | 上半期 | 下半期 | 通期 |
|------------|---------------|--------------|--------------|
| 連結売上高（前期比） | 346億円（101.7%） | 361億円（97.7%） | 707億円（99.6%） |

- ・和生菓子が主力「串団子」の伸長に加え、新しい取り組みのチルド和スイーツが大きく寄与し、順調に推移。
- ・蒸しパンと中華まんが苦戦。焼菓子も前年を下回り、和菓子計では前期並みにとどまる。

和生菓子 (309億円、104.3%)

- ・主力「串団子」の伸長に加え、チルド温度帯を活用した和スイーツ「クリームたっぷり生どら焼き」が17億円の売上で大きく寄与。
- ・自家製造「餡(あん)」を新規製法に切り替え、品質向上を実現。今期下期、餡の生産設備増強。活用を広げ、売上アップ図る。

蒸しパン (156億円、95.6%)

- ・コンビニエンス向けが苦戦。
- ・昨年8月発売、チルド温度帯を活用した「北海道チーズ蒸しケーキのとろけるぷりん」順調。今期、女性の製品開発体制を強化、市場ニーズを捉えたチルド蒸しケーキ等に注力、売上アップ図る。

焼菓子 (72億円、96.1%)

- ・主力「焼菓子饅頭ミックス(5)」、「特撰月餅」順調も、「ブッセ」苦戦。
- ・今期、高品質・高付加価値「ブッセ」の開発に注力、売上回復図る。

中華まん (99億円、94.2%)

- ・年初、暖冬による売上減少が影響。10月以降、回復傾向となる。
- ・今期、主力の「具たっぷりシリーズ」の品質向上に加え、健康志向に対応した製品開発に注力、回復図る。

■和生菓子

■蒸しパン

■焼菓子

■中華まん



(クリームたっぷり生どら焼き)



(北海道チーズ蒸しケーキのとろけるぷりん)



(特撰 月餅)



(具たっぷり肉まん)

⇒ 《2021年》新規製法により自家製造「あん」の品質向上実現。今期生産体制を強化、活用拡大図る